新規事業採択時評価結果（平成28年度新規事業化箇所）

担　当　課	：道路局　国道・防災課
担当課長名	：川﨑　茂信

事業の概要

事業名	地域高規格道路　濃飛横断自動車道（のうひおうだんじどうしゃどう） 一般国道257号　中津川工区（なかつがわ）	事業区分	一般国道	事業主体	岐阜県
起終点	自：岐阜県中津川市駒場（ぎふ　なかつがわ　こまんば） 至：岐阜県中津川市茄子川（ぎふ　なかつがわ　なすびがわ）			延長	５．０ｋｍ

事業概要

濃飛横断自動車道は、高規格幹線道路である東海北陸自動車道（郡上市）と中央自動車道（中津川市）を連絡することにより、県内の高速交通体系を補完する総延長約80kmの地域高規格道路。

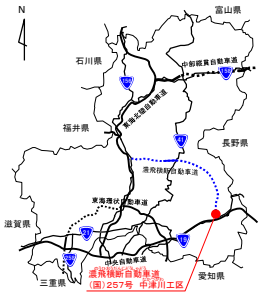
中津川工区は、リニア中央新幹線岐阜県駅へのアクセス強化や、現道区間の課題解消、地域の活性化を担う道路である。

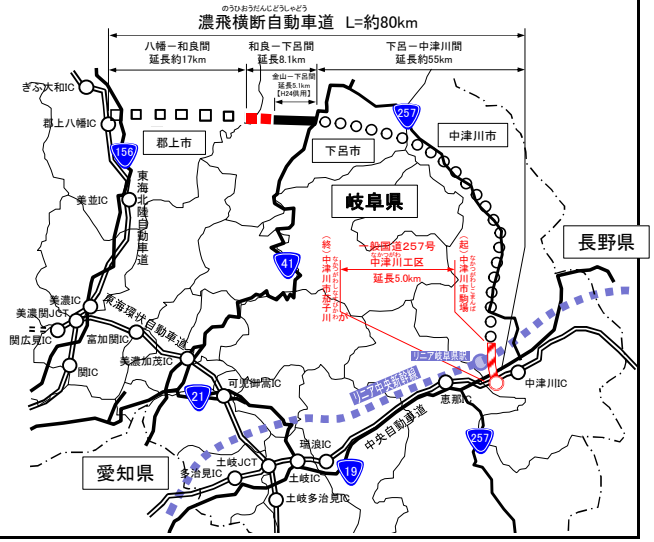
事業の目的、必要性

中津川工区は、現道区間の混雑緩和や死傷事故率の低減に大きく寄与し、速達性・定時性が格段に向上することが期待される。また、平成26年3月に策定された岐阜県リニア中央新幹線活用戦略において、南北方向の広域アクセス軸として平成39年の名古屋開業を見据えて整備する「第一次整備計画道路」に位置付けられており、リニア中央新幹線開業の効果を県内全域に波及させ、地域活性化にに資する道路である。

全体事業費	約３００億円	計画交通量	約7,800台/日～13,500台/日

事業概要図





関係する地方公共団体等の意見

中津川市などの沿線自治体で構成される濃飛横断自動車道事業促進期成同盟会（下呂市、中津川市、郡上市、東白川村）等より濃飛横断自動車道　中津川工区の早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

－

事業採択の前提条件

費用対便益　：便益が費用を上回っている。

手続きの完了：都市計画決定の告示が完了（Ｈ２７．１０．２０）

事業評価結果

費用対便益	B／C	１．３	総費用　２１４億円 事業費：　２１０億円 維持管理費：　３．９億円	総便益　２７６億円 走行時間短縮便益：２２８億円 走行費用減少便益：　４０億円 交通事故減少便益：８．０億円	基準年 平成２７年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=１．４　（交通量＋１０％）	B/C=１．２　（交通量－１０％）	
		事業費変動	B/C=１．２　（事業量＋１０％）	B/C=１．４　（事業量－１０％）	
		事業期間変動	B/C=１．２　（事業期間＋２０％）	B/C=１．３　（事業期間－２０％）	

事業の影響		評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	通過交通の転換により混雑が緩和。 【交通混雑の緩和】 混雑箇所（２箇所）の緩和
		事故対策	◎	通過交通の排除等により通過交通に起因する死傷事故が減少。 【死傷事故率】 317件／億台km（現道区間最大値） ※県内平均の死傷事故率（46.0件／億台km）の約6.7倍
		歩行空間	－	・注目すべき影響はない
	社会全体への影響	住民生活	－	・注目すべき影響はない
		地域経済	○	・リニア中央新幹線の開業に伴う沿線開発への支援
		災　害	○	・第１次緊急輸送道路の機能強化
		環　境	－	・注目すべき影響はない
		地域社会	○	・郡上市～下呂市～中津川市間の交流・連携の促進への寄与が期待される。
事業実施環境			○	都市計画決定手続きが完了（Ｈ２７．１０．２０） 中津川市などの沿線自治体で構成される濃飛横断自動車道事業促進期成同盟会（下呂市、中津川市、郡上市、東白川村）等より中津川工区の早期整備を要望されている。

採択の理由

事業主体である岐阜県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が１．３と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

また、渋滞緩和、交通事故の削減、緊急輸送道路の機能強化が図られるなど、当該事業の必要性、効果は高いものと判断される。

以上より、本事業を平成２８年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの